

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790300016		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	グループホーム もも太郎さん(谷田川)		
所在地	郡山市田村町谷田川字表前58-1		
自己評価作成日	平成28年1月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	〒974-8232 特定非営利活動法人 福祉ネットワーク		
所在地	福島県いわき市錦町大島2番地		
訪問調査日	平成28年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所には、ご家族様と一緒に生活できる「家族部屋」を2部屋配置し、ご夫婦での入居も可能であります。
また、谷田川小学校の生徒さんとの交流があり、利用者様楽しませております。
地域の行事にも可能な利用者様には参加させて頂き、地域交流に繋げております。法人の運営理念の「自由と家族の絆」を大事にし、職員が利用者様とご家族様との絆の受け渡しができる様に、「もも太郎さん新聞」の郵送等支援しています。また、可能な利用者様は、買い物に行けるように支援したり、自由に過ごせる様にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小学生の学習発表会の受け入れや地域の運動会への参加など、地域交流に取り組んでいる。
バスとトイレ付の2人利用可能な家族部屋を設けて、夫婦だけの世帯には日常生活を二人で送る場として利用してもらったり、看取りの時の家族が付き添えるなど支援できる体制を整えている。
職員は外部研修に加えて、自主的に救急救命士の講習を受けるなど向上心を持ちながら日々のケアに活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由と家族の絆」の運営理念のもと、事業所として「その人らしさを大切にし、1人1人に寄り添いながら、地域での暮らしが継続出来る様に支援いたします」の事業所理念を掲げ、職員同士共有し、実践に繋げる様に支援しています。	事業所理念を掲示して職員が常に確認出来るようしている。職員が提出する改善シートを基に月1回のミーティングでケアや接遇、施設などの改善点を話し合い、利用者の笑顔づくりに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的な、散髪(地域の理髪店)に来設いただき、谷田川小学校の生徒さんが発表会に来設頂き、交流したりしている。また、初回であるが、当事業所主催の「地域交流事業」を開催し、地域と交流を図っている。	地域に開かれた初の交流事業として、うつくしま連による阿波踊り公演を主催して、地域との交流を深めている。老人会からの依頼で、介護の説明に出かけたりと、関係づくりに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的な運営推進会議等で、認知症の理解について話しています。また、年に数回地域の敬老会「谷田川寿会」の茶話会に参加し、認知症の理解に努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際に、空き状況や行事報告にて意見を求め、話し合っている。	推進会議で事業の取り組みの報告のうえ、アドバイスを心得てケアに活かしている。地理的に近い須賀川方面からの入居依頼について、意見や提案を出してもらい対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者が、日頃より包括や居宅と連携している。また、サービス相談員の意見を取り入れながら、関係構築に取り組んでいる。	市の介護サービス相談員が月2回来訪して、利用者の一人ひとりの話を聞き、管理者との話し合いの場を設けるなどケアサービスの提案を通じた協力関係を構築している。必要に応じて関係部署に電話するなど関係づくりに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に「身体拘束」に関する内部研修を実施し、身体拘束について、職員が理解を深められるようにしている。また、ベットの柵が必要な利用者様に関しては、ご家族様にきちんと説明し、同意書を頂き、外せるように取り組んでいる。	研修を通して拘束禁止への意識を高めている。各部屋にセンサーを取り付けたり、安全面を考えて2階階段の降り口に取り外し可能な柵をつけたりするなど徘徊の利用者を見守るなど、家族の理解を得たケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に「高齢者虐待」に関する内部研修を実施し、事業所内での虐待が見過ごされないように、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用されている利用者様がいる為、内部研修に取り入れていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、管理者が説明し、不安や疑問点を聞いてから、サイン・捺印頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人様とご家族様の面会終了され、当施設を出る際にご家族様と話す機会を設け、意見・要望を聞いている。また、家族会の際にも意見・要望を汲み取り、運営に反映させている。	家族には、近況を載せた定期新聞の発送をはじめ、面会時や電話によって意見を把握するよう努めている。入院した利用者からその後の入居の希望などを含め、話し合いの場を設け対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から提出される「業務改善シート」をまとめ、定例会議にて、改善できる所は、すぐに改善できるようにしている。	月一回、職員が提出する改善シートを参考にし、風呂場のイスを回転式に替えたり、水漏れを直したりと職員の要望に対処している。外部をはじめとした各研修を受けられるよう勤務シフトを変えるなど工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	向上心が持てる様に、外部研修に参加を促したり、教育委員が中心となり、職場環境がより良い物になるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を希望する職員は、多々いるため、なるべく業務時間として参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加した際に、同業者との交流が持てる様になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する段階で、本人様・ご家族様の意向・要望を聞きだし、本人様の安心と信頼関係の構築が出来る様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する段階で、ご家族様・本人様より意向や要望を聞きだしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者兼ケアマネが職員と協力して、ご家族様やご本人様と、まずお話をしております。利用を決める際は、施設を見学頂き、ご本人様に必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なるべく1日1つの役割を持って頂き、暮らしを共に出来る様に関係構築に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様との連携・報告・相談を密にとり、「家族の絆」が継続され、共に支えられるように支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様の協力の元、外出の際に親戚の方にお問い合わせに行ったりしている。	受診の時などを利用して家族と外食を楽しんだり、行きたい所に行けるよう支援している。友人や知り合いと面会する時は居室で気兼ねなく過ごしてもらい、職員は見守りで対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や相性を考慮し、孤立しないように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても、問い合わせがあった場合は、相談やフォローさせていただきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランに、本人様の意向やご家族様の意向を反映させて頂いております。	利用者の生活歴を、入居の際に家族から聞き取りをしている。利用者の担当を決め、お風呂に入る時や日々の生活の中でさりげなく日頃の思いを聞くようにしている。七夕の時など短冊に思いを書いてもらったりして把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様やご本人様からお聞きした情報を基に、個々に		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の心身状況を考慮しながら、有する能力・残存機能を活かせるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングの実施やケアプラン作成時に本人様・ご家族様の意見・意向確認を実施し、最適のケアプランを作成している。	月1回の症状検討会や日々の状況に応じて介護計画の見直しをしている。早急な見直しが求められる場合は、家族との話し合いによる情報の共有と意思の確認を図り、かかりつけ医の意見を踏まえた上で変更して対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別記録に残し、月例会議の中でモニタリングの実施や申し送りノートを活用と日動変動がある利用者様に関しては、ケアプランの中に変化の記録を設け、再度閲覧した時に情報の共有が出来るようしている。また、必要時は、介護計画の見直しも随時行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員からのアイデア等も取り入れ、実践検証し、改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で区長さん・民生委員さんと意見交換している。地域包括支援センターの職員さんとも周辺情報や支援に関する情報交換にて協力関係を築いている。地域の理髪店さんが、2ヶ月に1回来設して下さいたり、小学生との交流もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族様の意向に沿った医療機関を紹介している。また、利用者様に状態変化があった場合は、入院設備のある別医療機関を紹介したり、適切な医療が受けられるように支援している。	利用者一人につき月2回の往診体制を築いている。協力医院の24時間サポートの連携協力により、緊急時以外にも気軽に相談しやすい関係を構築している。受診の時には、1週間分の体調変化を記した書面を渡すなど、サポートしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態に応じて、主治医の医療機関より、訪問看護に来設頂いたり、主治医の指示で、施設看護師が点滴を実施したり、連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、状況を把握している職員が同行し、医療機関への情報共有や管理者・家族への連絡を取り合い対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当医療機関と御家族様と施設職員とで、終末期に向けた支援法支援方針についての話し合い	終末期の意思を早い段階に本人から確認しておく、体調変化などの情報を家族と職員が共有しながら看取りができる支援をしている。家族部屋を利用して、夜には家族の人に泊ってもらうなど家族にも寄り添った支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1年に2回施設に消防の署員さんに来ていただき、心配蘇生の訓練を実施している。また、個人的に消防署に行き、「普通救命講習」を受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施している。また、運営推進会議でも区長様・民生委員様への協力依頼にて協力体制構築に努めている。	年2回、田村町の消防署の立ち会いを得て通報から避難訓練、消火訓練を実施して非常時の対応を確認している。夜間想定避難訓練では、車イスの利用者の外階段誘導にレスキューシートを使う方法など検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様1人1人の人格を尊重しながら、声かけをしている。	日中は居室の入口に防災素材で透かし模様のある暖簾をかけて、プライバシーを尊重しながら見守るように取り組んでいる。部屋前に名前を表示することで、他人の居室への迷い込み防止と利用者同士のプライバシー保持に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを聞く機会を設け、飲みたいもの・食べたいものを聞きながら、なるべく自分で決定出来る様になっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先するのではなく、職員同士が協力しながら、利用者様を優先し、1日の過ごし方や楽しみの提供をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の利用者様には、入浴後櫛で髪の毛をとかして頂く事や起床時は、洗面台の鏡の前で整容頂いています。また、可能な利用者様は、入浴の際の着替えをご自分で準備頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	気分を伺いながら、食事前のテーブル拭きをお願いしたり、可能な方は、食事を自分のお膳を台所に下げて頂いています。また、食事の形態にも工夫している。	利用者に応じて刻み食、ミキサー食にして楽しく食事してもらえよう支援している。年1回ラーメン屋さんがボランティアで来てくれたり、民生委員の人がソバを打ってきてくれたり、春には近くから山菜を取ってきてゴマあえにしたり楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の把握・バランスに注意しながら見守りしている。また、水分量も1人1人の利用者様に合った水分量が摂取出来る様になっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアの声かけにて実施している。また、みがき直しや拒否のある利用者様には、寝る前は必ず実施頂ける様に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録を活かしながら、定時でトイレへ移動介助したり、掴まって立てる利用者様は、トイレにて排泄を促しています。	利用者の排泄パターンから早めの誘導で、一日一回以上はトイレを使用できるよう自立支援している。夜トイレに起きると眠れなくなってしまう人のために、部屋にポータブルトイレを置くなど安眠対策にも対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳を飲んで頂いたり、便を柔らかくする薬を服用頂いたり自力排便をうながしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間を利用者様に決めて頂き、入浴支援しています。	毎日の入浴は可能となっているが、その日の体調に合わせて足湯やシャワーだけだったり柔軟に対応している。着替えを選ぶ楽しさや季節を感じるゆず湯を使ったりと、入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力や年齢等を考慮し、休息がとれるように支援している。また、夜間も安眠を妨げないように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をいつでも見られるところに保管し、職員が副作用や用法等を確認出来る様になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割が持てるように支援したり、楽しみを提供したりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、散歩に出かけたり、ご家族様と外出されたり、4月5月は、花見や足湯に外出している。	天気や利用者の体調を見て、小学校周辺の散歩への声かけ、歯科医の受診を兼ねた軽い運動などと外出支援をしている。春には弁当を持って花見に出かけたり、家族と一緒に足湯に行ったりと工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者様には、金銭管理頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、都度対応しており、年賀状も本人様からご家族様へ出しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度管理を実施し、居心地の良い空間の提供に努めている。また、季節感が感じられるように月々の掲示物を変えております。	天窓から光が入り明るい居心地の良い空間となっている。利用者の貼り絵などが飾られ、台所からは全体が見渡せるなど、安心、安全の見守り支援が実践されている。加湿機を設置するとともに洗濯物を干すことで適度な湿度、温度を保つよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、席順を考慮したり、ソファで一緒に話せるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	御家族様には、「馴染みのものを持参下さい」とお伝えしており、小物入れや賞状を掲示している利用者様もいます。	家族の写真や慣れ親しんだ小物を飾り、ベッドには好きなぬいぐるみと利用者の好みに応じた居室づくりを支援している。テレビを常設して、一人の時間を快適に過ごす工夫をしている。夫婦そろって生活を送れる家族部屋を用意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線の確保を実施し、出来ることは、やって頂いています。		